



## 〈第31回〉

## 脳梗塞～片麻痺と失語症

日本プライマリ・ケア学会 広報委員長 板東 浩 医師

フィジカルタフネス

## 解説

近年、各地で脳卒中センターが増えてきました。脳の血管が詰まる脳梗塞や、裂ける脳出血などに対して、救急で受け入れ治療する専門施設ですね。今回、登場する人物は、脳外科医の小野太助先生と、リハビリ部門で理学療法士チーフの能津真理さんです。

**小野** やあ、能津さん、この頃、患者さんのリハビリはどう？

**能津** はい、先生。さらに忙しくなっています。最近では、若年男性の脳卒中が増えているようです。

**小野** いいところに気がついたね。実はそうなんだ。なぜ増えてきたのか、わかるかい？

**能津** そうですね。おおむね、太っている人が多いようですけれども。

**小野** そのとおり。肥満を基盤として、高血圧、高脂血症(脂質異常症)、高血糖(糖尿病)という、「肥満+3高」の人がなりやすいんだ。

**能津** というと、いわゆるメタボが多くなったから、若くても脳卒中に陥ってしまうのですね。

**小野** そういえば、先日、脳梗塞で入院した中年男性はヘビースモーカーだったね。

**能津** はい、アメリカ人だったのですが、タバコと相撲が大好きで日本名を「蛇相撲家」にしたようなのです。

**小野** そうだったのか。彼は喫煙のために多血症となり、血液が粘かった。脳が詰まるリスクが高く、減量と禁煙をするように本人と家族に何度も指導していたんだ。

**能津** そうですか。今回の入院では、小野先生が治療の担当ですね。症状はいかがでしょうか？

**小野** 左脳が詰まったので、右手と右足が動かない「片麻痺」に。また、左脳に言語中枢があるため「失語症」がみられるんだ。リハビリの進行は順調かい？

**能津** いま、手足のリハビリおよび言語訓練を行っています。

**小野** そうか。それでは、よろしく頼むよ。

最近、大脳の血管が詰まる脳梗塞が増えてきました。メタボの男性でも、中高年のサラリーマンの多くは「自分は関係ない」と思っているかも。でも、現実とは違います。メタボの男性で、疲れや睡眠不足、種々のストレスが重なると、十分に起こりうる疾患です。特に、タバコを多く吸っている人は危険です。他人事ではありません。

脳梗塞の発症で片麻痺をきたします。右脳の血管が詰まると左の手足が、左脳なら右の手足が麻痺します。

ここで、重要なポイントがあります。ほとんどの日本人は、言葉を聞いて喋るなど、言語中枢が左側にあります。そのため、左側が詰まると言語領域が傷つくために、言葉がうまく使えなくなります。

言語能力とは「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」ことも含みます。そのため、左脳の障害によって、聞いて理解できなかったり(感覚失語、ウェルニッケ失語)、うまく喋れなかったり(運動失語、ブローカ失語)します。

もし、あなたが比較的若い年齢で脳梗塞を思い、その後長年にわたって半身不随や失語症で毎日を送るとなると、自分にも家族にも大変な負担になってしまいます。

「仕事が忙しいから」、「自分には関係ない」と思わず、まずは予備軍かどうかをチェックしてみてください。

今回は、脳卒中の予防・対策について解説します。

(図表) あなたは脳卒中予備軍か？

## ● 下記1つ以上に該当→脳卒中予備軍

- 高血圧がある
- 糖尿病がある
- 高脂血症がある
- 不整脈がある

## ● 下記3つ以上に該当→脳卒中予備軍の可能性あり

- 年齢は60歳以上だ
- 肥満である
- ストレスが多い
- 味が濃く脂っこいものが好き
- 食べ過ぎ、飲み過ぎがある
- 運動不足がある
- 睡眠不足がある
- タバコを吸う